ドローン学校 福井で羽ばたく

他県進出や新規開校

福井県内でドローンの操縦を教える「ドローンスクール」が活気づいている。北陸の空（福井県鯖江市）は福岡県と高知県にも進出し、日本システムバンク（福井市）は新規開校に踏み切った。ドローンは産業向け用途が広がり、2022年度中にも国の認定する操縦ライセンス制度が検討されている。福井県の広い土地や観光資源を生かし、今のうちに操縦を覚えたいという県外需要を呼び込む。

北陸の空が運営するドローンスクールは小学校跡地も活用する（福井県南越前町）

県外から誘客 広さ・観光資源生かす

10月下旬の週末、福井県南越前町の廃校となった小学校を改修した「リトリートたくら」で、10～60代の8人がドローンを飛ばしていた。お互いに離れて立ち、指示を出し合いながら正確な操縦を学んでいく。北陸の空が運営する「ドローンキャンプ」だ。1泊2日の合宿型で、座学のほか、広い体育館や校庭で操縦法を習う。

コンセプトは「まち全体を一つのキャンプ場に見立てる」。宿泊は近隣市のビジネスホテルで、昼食は地元食材の弁当、夕食は飲食店で福井の名物を食べる。山間部の公共施設を借りることで費用を抑え、参加費は宿泊・食事込みで17万8000円（税別）だ。ドローン技術習得だけでなく、都会からの観光需要も取り込む。

チラシなどの広告は一切しておらず、申し込みもウェブサイトのみ。それでも開校3年目で150人以上が予約する。

「こんなに空気がおいしい環境で過ごせるなんて」「ちょっとした旅気分だ」。参加理由は趣味から仕事まで多様だが、ほとんどが県外客。一様にこんな感想が漏れた。同社の久森章裕取締役は「地域連携型が特徴だ。南越前町は観光でなかなか来ない地域が、自然は非常に豊か。活性化につながればうれしい」と話す。

ただ、雪の多い地域のため、例年1～2月は休校していた。福井県内で培った地元一体型の運営ノウハウを生かし、年間を通じて雪のない福岡県高知県に進出を決めた。

福岡県では田川市の小学校跡地を活用した施設「いいかねPalette」を活用。郊外だが空港から1時間程度の好立地だ。高知では地元企業と連携し、フランチャイズ形式で運営する。

日本システムバンクは10月末、「JSBプロフェッショナルドローンスクール」を開校した。現場ですぐに使える人材の育成が目標で、大型ドローンや目視外飛行、夜間飛行も学べる。場所は県中心部から離れた六呂師高原で、やはり山あいの広い小学校跡地の自然体験施設だ。3泊4日で月2回程度開校するが、4人限定と少人数制を徹底する。参加費は20万円（税込み）。

同社は全国で7300カ所のコインパーキングを運営している。不動産会社との付き合いの中で、太陽光発電所の保守や農業用途でドローン活用が増えていると考え、スクールの運営に踏み切った。今後、福井県での主要都市への展開を検討する。また、不動産関連の営業網を通じ、ドローンを使った建物の点検業務なども受注したい考えだ。7～8年後にドローン事業全体で10億円程度の売り上げをめざす。

ドローンの認定ライセンスは現在、複数の民間団体が発行している。両社ともその中で最も規模の大きい一般社団法人日本UAS産業振興協議会（JUIDA）の加盟団体だ。ドローンビジネスの市場規模は2022年度には18年度比3・7倍の3463億円になると予測されている。国のライセンス制度設立を前に、扱い方を覚えておきたい需要は増えている。都市部では難しい広い土地での操縦訓練に、地方都市の資源を生かす。

許諾番号30084951　日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2021年11月12日 日本経済新聞　地方経済面　北陸

(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。